

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童通所支援BamblеGYM恵庭			
○保護者評価実施期間	令和7年10月8日 ～ 令和7年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和7年10月8日 ～ 令和7年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い空間で伸び伸びと身体を動かすことができる。また、制作やおもちゃ遊び等座った遊びもできるよう部屋を分けて、児童の好みに応じた活動ができる。	基準人員以上の職員を配置し各部屋に目が行き届くようにしている。	積極的な研修の受講や関係機関との連携等により、職員個々の児童対応能力の向上に努める。
2	日々のプログラムに器械体操を取り入れて運動機能の向上や集団行動を通じた社会性の向上を図っている。また、屋外での活動も積極的に行い、地域の行事への参加や公共施設の利用等を通じ、社会性の向上とインクルージョンの推進を図っている。	集団活動の際は個々の特性や能力に応じてグループ分けを行い、個別対応が必要な児童には職員を配置している。 グループを分けて小集団で活動することにより、待ち時間を短縮させ、児童が最後まで飽きずに参加できるよう心掛けている。 地域の行事に参加できるよう、日頃から情報収集に努	体操指導や運動療育に関する研修を行い、集団活動を円滑に進められる職員を増やす。 屋外活動を通じ、地域の人たちとの交流の機会を増やす。
3	保護者とのコミュニケーションや信頼関係の構築を図っている。 また、必要に応じて関係機関との連携も図っている。	定期的な面談や送迎時の情報共有の場以外にも、懇親会を開催するなど、保護者からの相談に適宜応じている。 関係機関と連携することで、共通理解を図り、本児に合った支援を提供している。	さらなる信頼関係の構築のため、懇親会を増回し、SNS等での情報発信を積極的に行う。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職がいなく、専門的な支援が弱い。	専門的な知識や技術を習得する機会が少ない。	スキルアップのための研修を積極的に行う。
2			
3			